

# 2016 チャレンジカップ ドーハ大会研修報告 ～日本代表コーチとして～

村田 憲亮\*

## 1. 期 日

平成28年3月21日（月）～27日（日）

## 2. 場 所

カタール / ドーハ

## 3. 派遣者

### <コーチ>

鈴木 良太（男子体操競技強化本部員・仙台大学）  
村田 憲亮（男子体操競技強化本部員・鹿屋体育大学）

### <審判員>

倉島 貴司（男子審判部部員）  
伊東 貴志（男子審判部部員）

### <サポートスタッフ>

村上 拓（日本スポーツ振興センターマルチサポートスタッフ）  
平瀬戸龍二（日本スポーツ振興センターマルチサポートスタッフ）

### <トレーナー>

山口 貴久（仙台大学）

### <選手>

丁子 大樹（仙台大学）  
佐藤 光（仙台大学）  
前野 風哉（鹿屋体育大学）

## 4. 競技会場及び練習会場

Aspire Academy Dome/ アスパイヤー・アカデミー・ドーム

P.O.Box22287,Doha-Qatar

Tel : +974 4413 6000 Fax: +974 4413 6060



## 5. 参加国及び出場選手数

本大会の男女参加国は33ヶ国（男子67名）、（女子44名）、男女合計111名。

ARG.ARM.AUS.AUT.AZE.BRA.CHN.CRC.CRO.  
CUB.FIN.GBR.GER.GRE.HUN.INA.IRI.IRQ.JPN.  
KAZ.LAT.MAS.NOR.NZL.POR.QAT.ROU.SLO.SUI.  
SWE.SYR.TUR.VIE.

## 6. 競技方法

- ①競技は2013年度版 FIG 採点規則に従って行われた。
- ②競技初日に男子予選（6種目）、2日目に前半決勝（ゆか、あん馬、つり輪）、3日目に後半決勝（跳馬、平行棒、鉄棒）が行われた。
- ③使用器具はヤンセン社製の製品使用。
- ④予選は、試技前に1人30秒のウォームアップあり。決勝は練習会場でウォームアップ後、ポディウムでは直ぐに試合開始。
- ⑤サブ会場は隣接するホールが使用された。
- ⑥各種目の審判配置は、D1,D2の2名とE1～E4の計6名。

\* 鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系

決勝は D1.D2 の 2 名と E1～E6 の計 8 名であった。

## 7. 内容＜概要及び競技詳細＞

競技方法や運営は、毎年の反省点を踏まえ改善がなされ、よりよく競技を進められるよう組織委員会の努力が感じられた。男子は、ゆか 26 名、あん馬 27 名、つり輪 22 名、跳馬 17 名、平行棒 27 名、鉄棒 29 名が予選に出場した。

日本チームからは 3 選手ともに予選に 3 種目ないし 4 種目に出場し、2 選手が決勝に進出した。決勝進出種目は以下の通りである。

丁子 大樹 あん馬 鉄棒

前野 風哉 ゆか 鉄棒

## 8. 日本チーム各選手の決勝戦況

### ＜決勝（前半）3月25日（金）＞

決勝試合進行は、1 種目ずつの競技と表彰、という流れで進められた。

#### ■ゆか

前野 風哉

13.400 (D=6.1 E=7.400 ライン -0.1) 8 位

演技冒頭の後方 3 回半ひねりで回転が付きすぎたため、組み合わせの前方 1/2 ひねりの蹴りがあわず手を着くミスを出してしまった。同時にラインオーバーも伴った。その後の演技はまとめたが大過失があったため、最下位となった。

#### ■あん馬

丁子 大樹

13.600 (D=5.800 E=7.800) 5 位

入りのセア倒立で両手を馬端に落としてしまい D スコアを 0.3 下げる演技となってしまった。その後の演技は予選同様であったが、入りのミスが致命的となり高得点を獲得することができなかった。

### ＜決勝（後半）3月26日（土）＞

#### ■鉄棒

前野 風哉

15.175 (D=6.3 E=8.875) 1 位

予選同様、初めのコスミック 1/2 ひねりを決め、続くアドラー 1 回ひねり～コスミック、アドラー 1/2 ひねりも完璧に捌いた。演技全体を通して流れが良く終末技の着地を決めて見事優勝を果たした。

丁子 大樹

14.575 (D=6.3 E=8.275) 5 位

コールマンでバーに近づいたが、け上がりで対応して切り抜けた。その後は無難に通しを行ったが予選よりも倒立等の内容は良くなかったが、予選よりも着地が良かったことから得点に関しては予選よりも獲得することができた。



## 9. まとめ

本大会には平成 27 年度 U-21 大学生強化選手から佐藤選手、前野選手、丁子選手の 3 名を派遣。それぞれ 3 種目及び 4 種目にエントリーした。

各国は、世界を代表する選手の派遣を行っており、2015 年世界選手権個人総合 2 位、鉄棒 3 位のマンリケ・ラルドゥエト選手 (CUB) やつり輪優勝者のペトロニアス選手 (GRE)、あん馬 3 位のメルディヤン選手 (ARM)、平行棒 3 位のステブコ・オレグ選手 (AZE) が特に今年度実績のある選手として挙げられた。

キューバのマンリケ・ラルドゥエト選手は6種目にエントリーしていたが、公式練習中の跳馬にて足を痛めてしまい、つり輪と平行棒の2種目に絞り参加することとなった。

本大会予選では、チャレンジカップ特有の長時間にわたる試合となり日本選手はコンディショニング調整や集中力を保つことが難しい環境であったと感じるが、このような経験を今後の競技生活に繋げてほしい。

採点の面では、疑問を抱くような採点はなくきちんと序列のついた採点がなされていた。他国と差を強く感じた種目は、つり輪であった。日本からは、2名の選手がつり輪に出場したが、力技の表現力や種類、完成度など、不足している部分が多く感じる。ミスの少ない種目のつり輪で高得点を獲得する為に、どう強化を進めるかが課題の1つとして挙げられる。今回派遣した3名の選手は、それぞれにおいて、予選でミスが目立った。ミスなく自分の実力を出し切るための準備に課題があるであろう。決勝に残った丁子選手、前野選手もゆかとあん馬でミスがあり、メダル獲得を逃した。鉄棒では2名ともにミスなく演技を行い、前野選手が優勝を収めた。大会を通じて1つでも日本に金メダルを持ち帰れたことは日本の層の厚さを示すことができたのではないかと感じる。それぞれの課題を今後の練習において克服し、今年度の競技力向上につなげて頂きたい。

最後に、大会期間中大変にお世話になったカタル体操協会の皆様方に感謝の意を表し報告とする。

以上